

塩酸メタンフェタミン 1mg 錠

溶出試験 本品 1 個をとり，試験液に水 900mL を用い，溶出試験法第 2 法により，毎分 50 回転で試験を行う．溶出試験開始 15 分後，溶出液 20mL 以上をとり，孔径 0.45 μ m 以下のメンブランフィルターでろ過する．初めのろ液 10mL を除き，次のろ液を試料溶液とする．別に塩酸メタンフェタミン標準品を 105 度で 2 時間乾燥し，その約 0.022g を精密に量り，水に溶かし，正確に 200mL とする．この液 2mL を正確に量り，水を加えて正確に 200mL とし，標準溶液とする．試料溶液及び標準溶液 100 μ L ずつを正確にとり，次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い，メタンフェタミンのピーク面積 A_T 及び A_S を測定する．

本品の 15 分間の溶出率が 80%以上のときは，適合とする．

塩酸メタンフェタミン ($C_{10}H_{15}N \cdot HCl$) の表示量に対する溶出率 (%)

$$= W_s \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{1}{C} \times \frac{9}{2}$$

W_s : 塩酸メタンフェタミン標準品の量 (mg)

C : 1 錠中の塩酸メタンフェタミン ($C_{10}H_{15}N \cdot HCl$) の表示量 (mg)

試験条件

検出器：紫外吸光光度計（測定波長：257nm）

カラム：内径 4.6 mm，長さ 15 cm のステンレス管に 5 μ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充填する．

カラム温度：40 度 付近の一定温度

移動相：ヘプタンスルホン酸ナトリウム 1.1 g をメタノール / 水 / 薄めた酢酸 (100) (7→50) 混液 (20 : 19 : 1) 1000 mL に溶かす．

流量：メタンフェタミンの保持時間が約 7 分になるように調整する．

システム適合性

システムの性能：標準溶液 100 μ L につき，上記の条件で操作するとき，メタンフェタミンのピークの理論段数及びシンメトリー係数は，それぞれ 4000 以上，2.0 以下である．

システムの再現性：標準溶液 100 μ L につき，上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき，メタンフェタミンのピーク面積の相対標準偏差は 3.0 % 以下である．

塩酸メタンフェタミン標準品 塩酸メタンフェタミン (日局)．ただし，乾燥したものを定量するとき，塩酸メタンフェタミン ($C_{10}H_{15}N \cdot HCl$) 99.0%以上を含むもの．